

先端数理科学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の趣旨

前世紀から急速に発展した工学，科学技術の革新によって我々は多大な恩恵を受けてきたが，同時に温暖化，砂漠化，大気汚染等，我々を取り巻く環境が大きく変わり，経済も激しく揺れ動いている。我々が普段活動している社会には，脳，免疫系，インターネット，経済変動，社会の高度化・複雑化等，不確定なゆらぎのもとに，ダイナミックに変動しながら発展していくシステムがミクロレベルからマクロレベルまで様々な形で存在している。これらのシステムがもつ複雑さは，要素の数が非常に多いというだけではなく，要素からいくつかの階層が形成され，それらが複雑に絡みあってシステム全体を形成するようになっている。このようなシステムの解明には要素間の複雑な絡みを理解することが必須であり，これこそが数理科学に課せられた重大な使命である。

21 世紀は，まさに数理科学の時代と言える。社会に現れるこれらの複雑現象の解明に向けて，絶え間なく発展進化している現代数学に強い期待が寄せられており，それに明確に応えるためには，現象と数学の掛け橋となる数理科学が重要な役割を果たさなければならない。それは，これまで様々な分野で用いられてきた現象を忠実に捉える定量モデルを見据えつつ，現象の本質を見抜き，理解するという抽出モデルを新たに構築する数理科学を実践していくことにある。

そのため，本学では，社会とのかかわりを重視した数理科学の発展と普及を図ることを目的として，2007 年 7 月に先端数理科学インスティテュート(MIMS)を開設した。また，数学・数理科学分野の大学院教育においては，平成 19 年度文部科学省大学院教育改革支援プログラム「社会に数理科学を発信する次世代型人材の創発」（単独申請）及び「数理生命科学融合教育コンソーシアムの形成」（共同申請）を実施している。更には，MIMS を母体として，新たな学問分野として掲げたプログラムである「現象数学の形成と発展」は，平成 20 年度文部科学省グローバル COE プログラムに採択され，その活動を展開している。このグローバル COE プログラムの目的には，人材養成が重点的に謳われており，現在，「MIMS Ph. D. プログラム」や「博士後期課程全研究科横断型カリキュラム『先端数理科学インスティテュート科目群』」等の教育活動が行われているところである。

今後到来する「知識基盤社会」においては，人材養成機能の強化と世界レベルでの教育研究拠点の形成が大学院教育に求められており，本学大学院において，世界レベルの数理科学を展開する意義は極めて大きい。

よって，本学は，先端的な数理科学に寄せられる社会のニーズに応え，21 世紀社会の新たな発展に寄与できる人材を育成することを目的として，文理融合・領域横断型の教育研究を実践する先端数理科学研究科を新たに設置する。先端数理科学研究科は，先端

数理科学インスティテュート(MIMS)現象数理部門、先端数理部門が中心となって推進してきたグローバルCOEプログラム「現象数理学の形成と発展」及びMIMS Ph. D. プログラムといった数理科学に関する教育研究活動のこれまでの実績を踏まえ、これらを更に高度で体系化された大学院教育へと発展させるものである。

資料 1 先端数理科学研究科と MIMS の関係図

資料 2 先端数理科学研究科 MIMS Ph. D. プログラム：現象数理学のスペシャリスト育成

(2) 教育研究上の理念、人材養成の目的

先端数理科学研究科（以下「本研究科」という。）は、「社会に発信し、社会に貢献する数理科学」を目指す文理融合・領域横断型の研究科である。つまり、自然、社会、生物等に現れる複雑なシステムを先端的な数理科学により解明し、これを社会に還元して、社会イノベーションの実現を図り、ひいては人類の福祉の向上に寄与することを理念として教育研究を展開する。

本研究科は、高度で幅広い数理科学的素養を身に付け、自然、社会、生物等に現れる現象とのインターフェイスとなって数学と諸科学の掛け橋を構築する力を持った国際的に活躍できる人材の育成を目指す。

特に、博士前期課程では、数学と諸科学の融合を目指す現象数理学的思考及び技術を身につけた研究者または高度専門職業人を育成する。諸分野における様々な問題の発掘及び解決ができる数理科学ディレクターなどは、社会、とりわけ産業界からの多様な要請に応え得る人材である。

博士後期課程では、前期課程における人材養成目的を踏まえつつ、更に、研究者として自立して研究活動を行い得る人材を育成する。その成果は、21世紀社会に貢献する数理科学の発展へとつながり、現代数学の新たな発展と裾野の拡大を促すことが期待される。

2 課程の構想

本研究科は区分制の博士課程とし、博士前期課程及び博士後期課程を同時に開設する。本学は、大学院博士後期課程に共通プロジェクト系科目を設置し、先端数理科学インスティテュート所属教員で組織された研究指導プログラムと連携させた教育研究活動（MIMS Ph. D. プログラム）を2009年度から行ってきた。博士後期課程において、すでに継続されている教育研究実績があることから、博士前期課程と後期課程を同時に開設する。

3 研究科の名称及び学位の名称

社会に現れる複雑現象の解明に向けて、数理科学は重要な理論的方法論である。本研究科は、現象と数学の掛け橋となるモデリングを通して、これまで数学からかけ離れていた未開拓の分野に切り込み、新しい数理科学を展開する研究科であることから、名称を先端数理科学研究科とする。

専攻の名称	先端数理科学研究科 現象数理学専攻 (Graduate School of Advanced Mathematical Sciences Department of Mathematical Modeling, Analysis and Simulation)
課 程	博士前期課程及び博士後期課程（同時開設）
学位の名称	修士(数理科学) 博士（数理科学）

4 教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育研究領域

本研究科は、現象の本質を見抜き、理解する抽出モデルの構築を柱とする数理科学の教育研究を行う。自然、社会、生物等に現れる複雑現象の数理解明に向けて、モデリングに関する基礎技術及び数理解析技術を習得させる。

具体的に取り扱う現象としては、

- ・錯視や錯覚、思考に見られる知覚・認知現象
- ・経済活動、金融工学、渋滞のメカニズムや地球温暖化などの社会現象
- ・免疫系、遺伝子構造、ガン細胞メカニズムや心室細動などの医学現象
- ・生命活動や生態系などの生物現象
- ・地震のメカニズムや地球環境などの物理現象
- ・化学反応やタンパク質合成に現れる非平衡現象

などが挙げられる。我々の生活に直接関連の深いテーマに関して、モデリング、数理解析、コンピュータシミュレーションを行い、複雑現象を数理的に理解し、問題に共通する原因を探る。こうした一連の学習から問題解決する能力を培っていく。このように、現代における重要な課題に挑戦しながら、現象数理学的な手法を理解する環境を整える。

（２）教育課程編成方針

本研究科は、高度で幅広い数学的素養を基にして、社会に広く貢献する人材を育成することを目指している。このため、自然、社会、生物等における諸現象を数理的観点から研究する現象数理教育に重点を置き、「モデリング」、「数理解析」、「シミュレーション」をキーワードとした教育課程を編成する。

複雑現象の本質を抽出する手法としてモデリングを学ぶが、現象の本質を一度に抽出することは難しく、まず1つのモデリングを行い、そのシミュレーションや数理解析を

行う。その結果を理解し、さらによりモデリングを行い、またシミュレーションや数理解析を行う。この一連の作業を繰り返す中で、本質的な要因を探り出していく。本質的な要因を見つけるには、問題・現象に特化した専門的な知識や理解に加えて、新しい数理的な解釈や付加的な発見も必要になる。こうして数理的深化のプロセスを現象に即して学んでいく。このことから、数学・数理科学と他分野をつなぐインターフェイスとなるために必要な素養として、学問（数理科学）が実社会（現象）と乖離したものではないが、直接的にはつながっていないことを理解し、それゆえに現象をモデル化するという現象数理学の能力の開発を重視する。こうした能力が備われば、自然科学，経済，社会，人文科学等の分野に現れる現象を個別の現象として捉えることなく、現象数理学の対象として捉えることが可能となる。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

本研究科の教員組織は教授 5 名，准教授 3 名，講師 2 名の 10 名からなる。全ての教員が博士学位（理学又は工学分野）を保有しており，数理科学，数理工学，数理生物学等の分野に係る研究業績を有するなど方法論としての専門分野と共に自然，生物，社会に現れる複雑現象解明への実績を持っている。

博士前期課程においては，教授 4 名，准教授 3 名，講師 2 名の 9 名が授業科目ならびに研究指導を担当する。博士後期課程においては，教授 5 名，准教授 3 名，講師 2 名の 10 名がこれを担当する。

本研究科は現象数理学という新しい学問分野を展開する研究科であるが，9 名の教員はグローバル COE プログラム「現象数理学の形成と発展」の事業推進担当者，研究協力者である。従って，モデリング・数理解析・シミュレーションの分野から教員が参加し，複数指導体制を実施する「MIMS Ph.D. プログラム」教育の経験・実績を有しており，本研究科の教育研究指導においてもこの連携を継続させる。

6 教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件

（1）教育方法の特色

現象数理学を習得するために，研究テーマに応じて，現象の数学的記述であるモデリング，その解析であるシミュレーション，数理解析の連結が不可欠である。それを効果的に実践するため，博士前期課程においては，従来の講義形式による教育手法に加え，新たな教育手法を加える。具体的には，現象数理学の方法論であるモデリング，シミュレーション，数理解析の分野から主分野を選択し，正指導教員による指導を受け，残る 2 分野は先端数理科学インスティテュートからそれぞれの副指導教員を選ぶ。複数研究指導体制により，複眼的視野を持つ教育研究指導を行う。博士後期課程においては，学生の研究テーマに応じてモデリング，シミュレーション，数理解析の分野からそれぞれ 1

名の教員が選出され、3名の指導教員がチームフェローとして研究指導に携わる体制とする。

(2) 履修・研究指導方法

博士前期課程

〔第1年次〕

① 指導教員の決定

入学の際に研究指導を受ける正指導教員を決定する。正指導教員と相談し、2名の副指導教員を届け出る。

② 研究計画書の提出

学年はじめの所定の時期までに博士前期課程における研究計画書を、正指導教員に提出する。

〔第2年次〕

① 最終年度研究計画書の提出

博士前期論文完成を目指して、最終年度の研究計画書を作成する。

② 中間発表会

研究の進捗状況の中間発表会で発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。

③ 博士前期論文の完成

指導教員の指導の元に論文を完成させる

博士後期課程

① 研究テーマの決定

学生の興味、研究室のこれまでの実績および指導教員の助言などに基づき学生が発案する。これまでに明らかになっている事実、つまり、実験的・観察的な結果、数値解析的な結果および数理解析的な結果に関する文献調査や、今後研究の展望が重要であり、学生の提言に基づき、チームフェローと議論をした上で研究目的を確認する。

② 研究計画の策定

設備、能力等を考慮しながら計画を立てる。

③ 研究の遂行と検討

研究結果の解析とその内容の十分な理解の上に、今後行なう作業を検討する。複数の指導教員と十分に協議しながら、進めていく。

④ 論文の作成及び外部発表

得られた結果を取捨選択し、論文へとまとめていく。必要な追加研究についても議論する。

⑤ 学位請求論文の完成

(3) 修了要件

博士前期課程

修業年限	2 年
修了要件	34 単位以上
必修科目	現象数理学研究Ⅰ～Ⅳ（16 単位）， 現象数理学セミナー A・B（毎年次履修 4 単位） 現象モデリング要論，現象科学計算要論，現象数理解析要論（各 2 単位）
研究指導	学位論文作成のため，指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
その他	・指導教員が研究指導上必要と認めた場合には，本研究科の授業科目のほか，他の研究科（専門職学位課程を含む。）及び単位互換協定による他の大学院の授業科目を 10 単位を限度として履修することができる。 ・指導教員が研究指導上必要と認めた場合には，別表 1 の 2 に定める研究科間共通科目及び別表 1 の 3 に定めるプロジェクト系科目を履修することができる。

博士後期課程

修業年限	3 年
研究指導	学位論文作成のため，指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
必修科目	別表 1 の 3 に定めるプロジェクト系科目先端数理科学インスティテュート科目群のうちから，4 単位以上を必修する。
その他	・指導教員が研究指導上必要と認めた場合には，別表 1 の 2 に定める研究科間共通科目及び別表 1 の 3 に定める先端数理科学インスティテュート科目群以外の科目を履修することができる。

7 施設・設備等の整備計画

本研究科は開設から2年間、生田キャンパスで教育研究を展開し、2013年に中野キャンパスへ移転する。中野キャンパスは、2013年に開設を予定している本学の新キャンパスであり、国際化、先端研究、社会連携の拠点となるべく現在建設計画を検討している。

(1) 校舎等施設の整備計画

2011年度・2012年度

生田キャンパスの校舎を理工学部および農学部との共有で利用する。学生のための研究室として、第二校舎3号館に先端数理科学研究科専有の共同研究室を設ける。現在同校舎には、先端数理科学インスティテュート(MIMS)の活動拠点があり、教員研究室と学生の共同研究室を同じフロアに配置することで、チームフェローによる研究指導体制をより円滑に行えるようにする。

2013年度

拠点を中野キャンパスに移し、教育研究を行う。本学は、2007年に中野区に新キャンパス用地を購入し、現在、建設計画を進めている。(校地面積954,000㎡、校舎面積等建設計画が確定していないため、基本計画書ではその他用地面積に算入。)同キャンパスには、国際日本学部、先端数理科学インスティテュート(MIMS)の移転が決定しており、また、理系新学部の開設も予定している。施設設備としては、講義室に加えて、資料室や実験室など本研究科の専有施設を設け、より充実した教育研究環境を整備する。

(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本大学では教育研究を展開する3校地全てに図書館を設置している。2010年申請時点の大学全体の蔵書数は図書約235万冊(和書153万冊、洋書82万冊)、雑誌約2万6千種類(和書1万9千種類、洋書7千種類)となっている。うち、本研究科において扱う学問分野に係る図書を約2万冊蔵書している。なお、今後も毎年度図書の受入れを予定している。

また、電子ジャーナルや電子ブック、データベースについても学生及び教職員が自由に使える環境を整備している。2007年度には電子資料のバックファイルを導入するなど一定の基盤整備を行った。今後は新着雑誌の電子化をより一層推進していくとともに、図書館システム全般の電子化対応をすすめ、従来の紙媒体による蔵書構築とあわせて教育・研究環境を整備する。

各校地の図書館については次のとおりである。

- ① 駿河台校地(中央図書館、ローライブラリー、保存書庫)

面積14,110㎡、座席数1,331席、休日の開館を実施している。

- ② 和泉校地

面積 4,864 m²、座席数 1,027 席、人文科学及び社会科学の図書を所蔵している。

③ 生田校地

面積 4,940 m²、座席数 719 席、主として自然科学系の図書を所蔵している。

本研究科所属の学生は、主として生田図書館を利用するが、各キャンパスの図書は取り寄せて利用することもできる。目録情報のデータベース化により全蔵書が OPAC（蔵書検索システム）を通じて検索可能であり、自宅のパソコンや携帯電話からも利用できる。また、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムへの参加により、全学生が青山学院大学をはじめとする 7 大学の図書館を利用できる。その他にも、杉並区図書館ネットワークへの加盟（和泉図書館）や、神奈川県内大学図書館相互協力協議会への加盟（生田図書館）等、地域との連携も促進している。

資料 3 先端数理科学研究科 院生共同研究室配置図

資料 4 明治大学中野キャンパスコンセプト

8 既設学部との関係

本研究科は、理工学研究科基礎理工学専攻数学系の現象数理学分野が中心となって、一つの専攻として発展する形をとる。本研究科と関係のある大学院組織としては、理工学研究科新領域創造専攻数理ビジネス系、基礎理工学専攻数学系及び情報科学系が挙げられる。

本研究科は独立研究科であることから、現在、それを支える学部組織はないが、2013 年度展開する中野キャンパスにおいて、数理と情報（コンピュータ）を手法として自然・社会・人文科学分野における複雑現象の解決を目的とする理系新学部の設置が予定されており、今後、学部の設置計画を具体化する段階で、大学院と学部の協力体制を構築する。

9 入学者選抜の概要

（1）アドミッションポリシー

本研究科は、社会の諸分野における複雑なシステムを解明することにより、「社会に発信し、社会に貢献する数理科学」の実践を目指す研究科であることから、主に次のような意欲を持つ学生を積極的に受け入れるものとする。

○国内外を問わず、現代数学、数理科学に関する基礎学力を身に付けている、もしくは、出身学部にとらわれることなく、特定分野における十分な基礎学力を有していることに加え、数理科学を理解しうる素養と物事を論理的に考えることができる素地を備え、現象解明に知的好奇心を持って学習・研究に積極的に取り組もうとする者

○数理的な知識や論理的思考力を生かして社会において指導的役割を果たせる研究者や極めて高度な専門職業人を目指すという強い意欲を持ち、国際的なレベルでの活躍を目指す者

(2) 入試形態及び選抜方法

博士前期課程

- | | |
|------------|-------------|
| ア 学内選考入学試験 | 面接試験 |
| イ 一般入学試験 | 英語・小論文・面接試験 |
| ウ 社会人入学試験 | 小論文・面接試験 |

(社会人の定義：出願資格)

(ア) 企業、教育機関、官公庁等に 2 年以上在職し、かつ、所属長の承諾書を提出することができる者。

(イ) 企業、教育機関、官公庁等に 3 年以上在職した経験を持ち、2011 年 3 月 31 日までに 25 歳に達する者で、在職期間を証明できる書類を提出できる者。

- | | |
|--------------|-----------------------|
| エ 外国人留学生入学試験 | 英語・小論文（英語での回答も可）・面接試験 |
|--------------|-----------------------|

博士後期課程

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ア A 方式入試 | 研究計画プレゼンテーション・面接試験 |
| イ B 方式入試（渡日前入試） | 書類選考 |

(3) 入学定員及び収容定員

博士前期課程 入学定員 15 人 収容定員 30 人

博士後期課程 入学定員 5 人 収容定員 15 人

10 管理運営

(1) 研究科委員会

明治大学大学院には大学院委員会を置き、研究科に研究科委員会を置いている。本研究科に関する事項は、現在（2010 年 6 月時点）大学院先端数理科学研究科設置準備委員会を設置し、必要な教学関係事項を審議しているが、2011 年 4 月以降は、先端数理科学研究科委員会を置き、授業及び研究指導を担当する専任教員をもって組織し、以下に挙げる審議事項を取り扱う。

①研究、教育及び指導に関する事項

- ②教員の人事に関する事項
- ③授業科目の編成及び指導に関する事項
- ④試験に関する事項
- ⑤学位論文の審査に関する事項
- ⑥学生の入学，留学，休学，復学，退学，再入学及び修了等に関する事項
- ⑦学生の育英・奨学及び賞罰に関する事項
- ⑧その他当該研究科に関する事項

（２）事務組織

研究科の運営に関する事務は，教務事務部大学院事務室において行う。

（３）管理運営の方法について

大学院委員会は，大学院長，教務主任，各研究科長並びに各大学院委員をもって組織され，各研究科共通事項について審議している。研究科の運営は，上記で述べたとおり研究科委員会において行われており，一定の独立性の確保及び独自運営について保証される仕組みになっている。

１ １ 自己点検・評価

（１）実施方法，実施体制

明治大学は，教育・研究に係る適切な水準の維持及びその充実に資することを目的として，以下の委員会を組織し，教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行っている。

①明治大学自己点検・評価全学委員会

学長の下に置かれ，自己点検・評価の基本的事項及び基本計画を審議・決定し，総合的な自己点検・評価を行う。学部等委員会から提出された報告書に基づき，総合的な自己点検・評価報告書を作成し，評価委員会に提出する。

②自己点検・評価学部等委員会

各学部，大学院研究科及び附属機関並びに点検・評価項目に関連する教学及び法人の各部門にそれぞれ置かれ，全学委員会における審議・決定に基づき，当該部門の自己点検・評価を主体的かつ具体的に実施する。自己点検・評価の結果に基づき，当該部門の自己点検・評価報告書を作成し，全学委員会に提出する。

③評価委員会

全学委員会から提出された自己点検・評価報告書の評価を行い，その評価結果を全学委員会に報告する。学識経験者を含む計 20 名の委員をもって組織する。

（２）結果の活用・公表

自己点検・評価を実施した結果の活用について、明治大学自己点検・評価規程第 17 条において、「理事長及び学長は、（中略）速やかに、有効かつ具体的な措置を講ずるものとする。」と定め、法人及び大学の各部門において改善策を策定・実行するとともに、各部門等においても具体的な改善策を策定し、次年度の教育研究計画に反映させる。このことにより、各学部及び研究科等においては、自己点検・評価を単なる点検・評価に終わらせることなく、授業方法やカリキュラムの改善につなげている。また、自己点検・評価の結果をホームページで公表し、広く学内外から結果に対する意見を聴く体制をとっている。

（３）認証評価機関による評価

明治大学は、学校教育法に定める認証評価について、財団法人大学基準協会に大学評価の申請を行い、2008 年 3 月に「大学基準に適合している」と認定された。なお、認定の期間は、2015（平成 27）年 3 月 31 日までとされている。

1 2 情報の提供

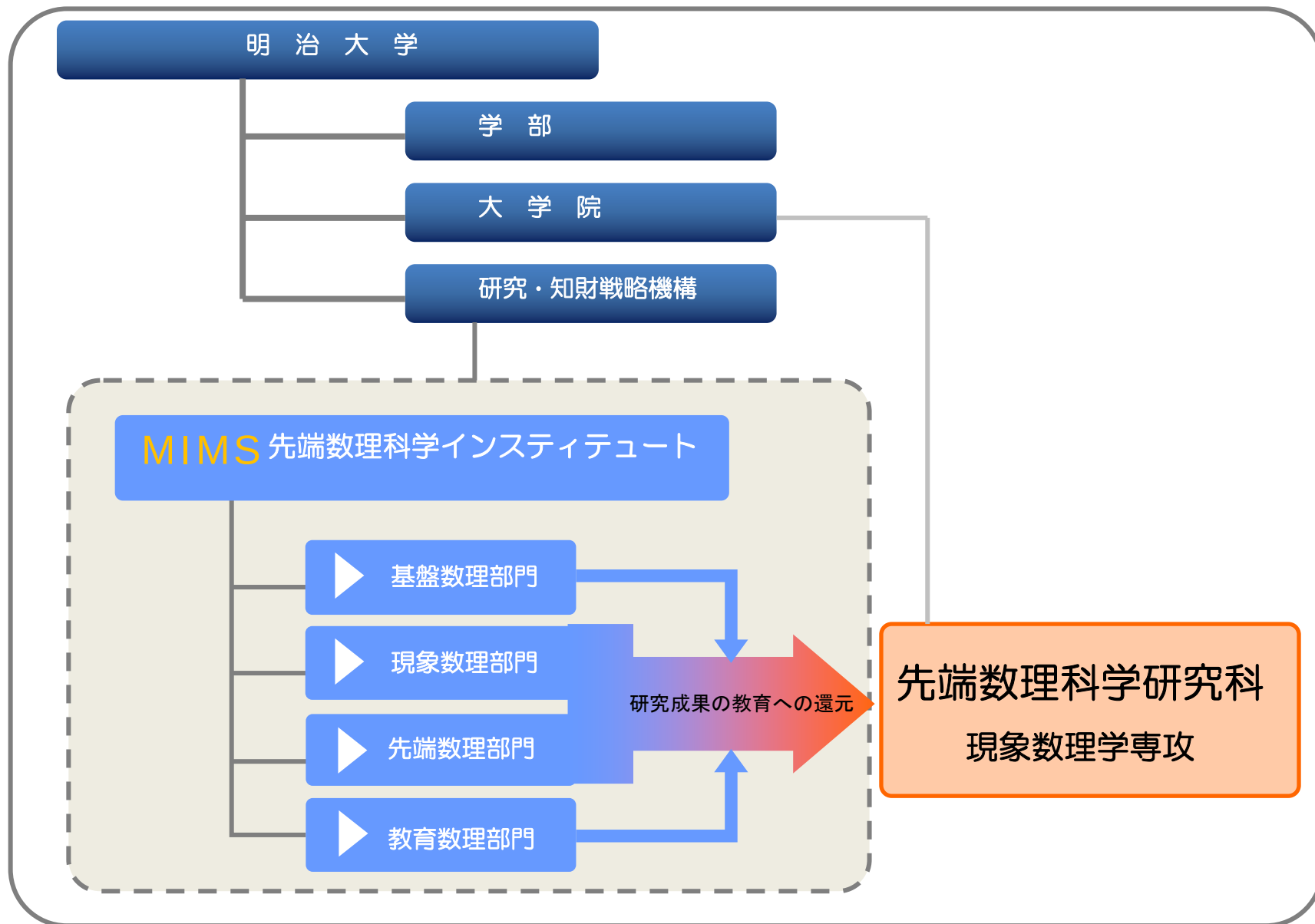
先端数理科学研究科の教育研究上の目的については、大学院学則に定めるとともに、シラバス、ガイドブック等において公表する。また、カリキュラムや専任教員プロフィール等に加え、公開義務化の対象となる情報についても、適宜ホームページ等を通じて公開するなど、大学全体として適切な情報の提供に向けた取り組みを行っている。

1 3 教員の資質の維持向上の方策

全学的な教育支援体制に係る諸施策の立案及びその推進を通じて、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を行うことにより効果的な教育活動の実践を支援・促進することを目的として明治大学教育開発・支援センターを設置している。学生による授業評価アンケートの実施、新任教員に対する研修会の実施、講演会やシンポジウムの実施を通じて教員の資質の維持向上を図っている。

教員の資質向上は、教育の場における当然の責務であり、教育内容が個々の研究領域の発展および社会的ニーズに合わせて常に点検され、新しくなること、また、学生のニーズに対応して教育内容の吟味と教育効果を高める施策が講じられなければならない。さらに、教員自身がそうした教育の充実・変革に即応できるように自らが研究者としての研鑽を積むことが求められる。具体的には、学生による指導評価を随時実施して、教員が自分の教育内容・方法を客観的にチェックする。

先端数理科学研究科とMIMSの関係図



先端数理科学研究科

MIMS Ph.D. プログラム：現象数理学のスペシャリスト育成

■先端数理科学研究科博士後期課程科目

- 現象数理学提案型プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ

■大学院プロジェクト系科目

(先端数理科学インスティテュート科目群)

- 先端数理科学 A・B
- Advanced Mathematical Sciences C・D

■大学院研究科間共通科目

(国際系科目群)

- 学術英語コミュニケーション
- 英文学術論文研究方法論

MIMS 研究指導プログラム（標準 3 年間）

Step.1 現象数理学横断教育プログラム

現象のモデリングに関する基礎技術と数理解析技術の修得

3 班融合研究指導チームフェロー

シミュレーション班

数理解析班

モデリング班

Step.2 現象数理学実践プログラム

実験体験の蓄積・拡充，課題の発見と問題意識の醸成，
実験家，実務家，観測・フィールド研究者とのコラボレーション

【単位互換・研究指導委託】

広島大学大学院
数理分子生命理学専攻 博士後期課程

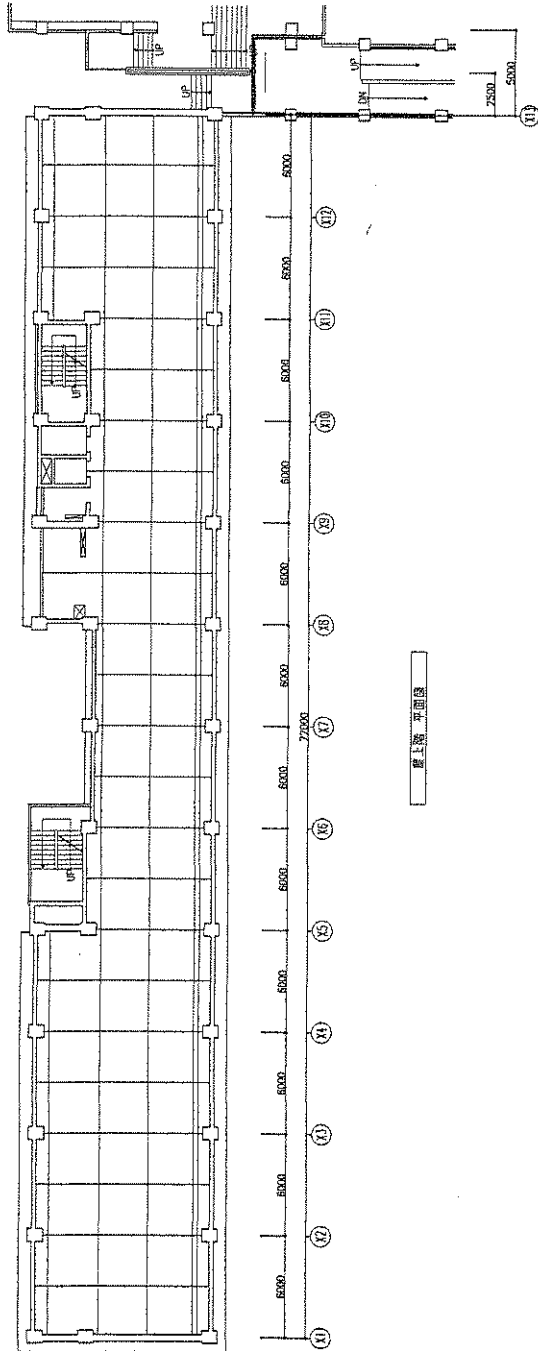
静岡大学大学院
自然科学系教育部 (※後期 3 年の博士課程)

龍谷大学大学院
数理情報学専攻 博士後期課程

学位請求論文
提出・審査

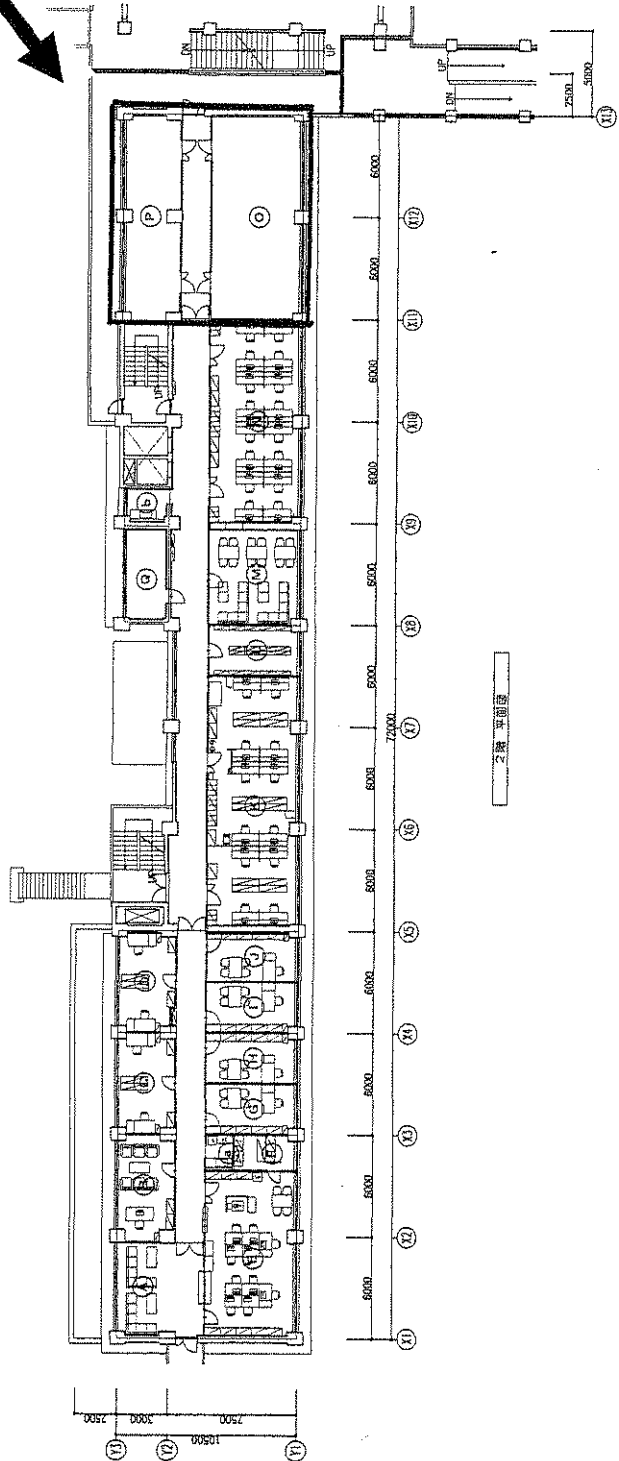
**博士（数理科学）
学位授与**

整備予定場所



各室面積表 2階

記号	部屋記号	部屋名	面積	備考
A	3201	前室	79.13㎡	
B		候客リバー室	21.67㎡	
C		客員室 1	20.46㎡	
D		客員室 2	20.02㎡	
E	3206	GCD 報道事務所	52.73㎡	
F		倉庫	7.84㎡	
G		特任室 1	16.02㎡	
H		特任室 2	16.02㎡	
I		特任室 3	16.02㎡	
J		特任室 4	16.02㎡	
K	3212	PD 室	80.10㎡	
L	3213	資料室	16.02㎡	
M	3214	ラウンジ	32.04㎡	
N	3215	院長研究室	64.08㎡	
		備品倉庫 1	64.08㎡	
P		備品倉庫 2	41.77㎡	
Q	3204	計算室	9.10㎡	
a		給湯室 1	3.51㎡	
b		給湯室 2	6.16㎡	
		廊下・その他	201.45㎡	
		合計	731.19㎡	

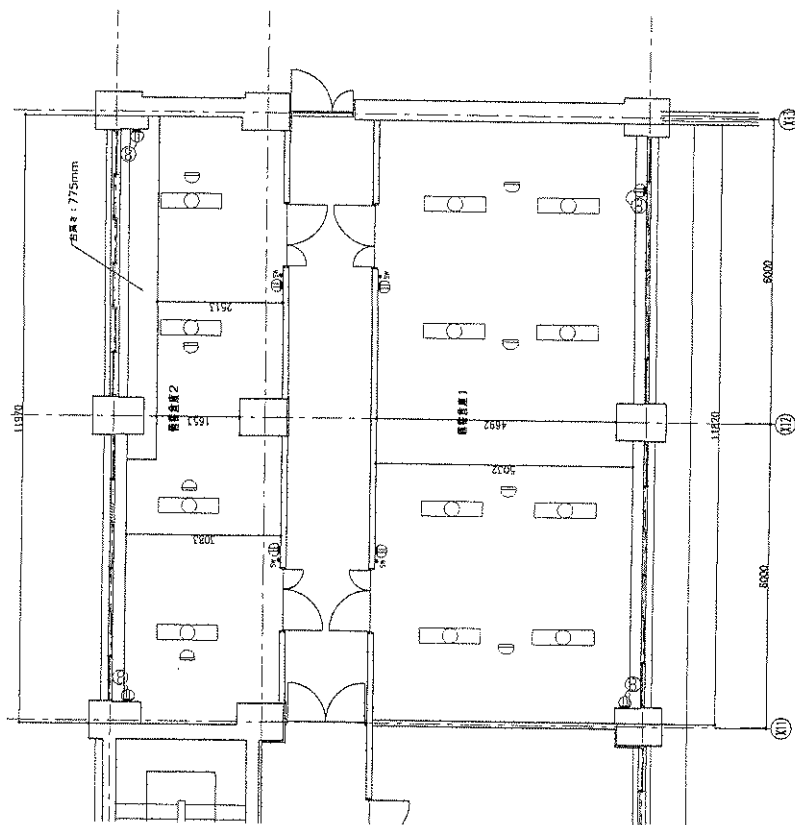


生田 第二校舎3号館 改修工事 配置図

<先端数理科学研究科 研究室・事務室>

案

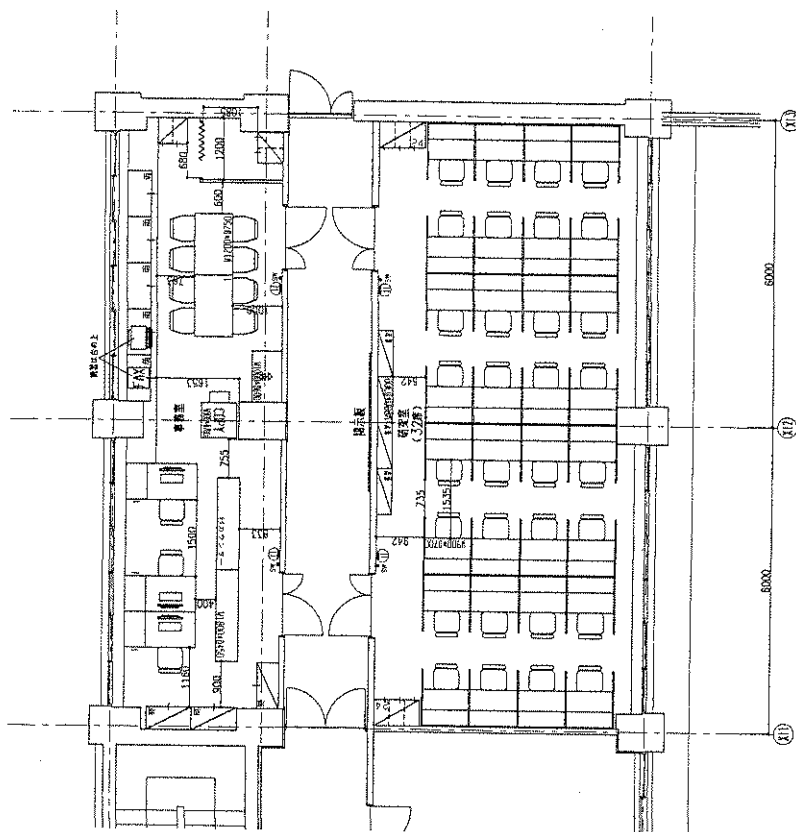
1:1500
1:1000



2階 平面図 (現状)

凡 例

①	電源コンセント (壁掛け)
SW	電灯スイッチ
②	伸張器
③	感知器
④	電灯 (蛍光灯×2)



2階 平面図 (改修)



明治大学中野キャンパスコンセプト

知の森

The Forest of Wisdom
明治大学中野キャンパス

世界に開かれた領域横断的な先進的研究・教育拠点としての理想的な環境を整備し、
未来へ飛躍する明治大学中野キャンパスを提案します。

伝統と先進性の融合

- ・明治大学の伝統の継承
- ・先進的研究拠点の整備
- ・第4のキャンパスの独自性

～過去と未来がつながる～

- ・伝統を象徴するタワー
- ・先進性を表現するガラス
- ・伝統と先進の融合したキャンパス
- ・1期で完成される象徴的な姿

アカデミックフォーラム

- ・個を強くし世界と学術交流
- ・地域交流
- ・国際交流
- ・文理融合、産官学連携

～個と個、個と世界がつながる～

- ・領域横断的な交流の場
- ・全ての交流の軸となるキャンパスモール
- ・水平移動による回遊性
- ・各所に賑わい、憩い、交流の場を創出
- ・個を表現するフレームとガラス

エコキャンパス

- ・地域との交流と調和
- ・地球に優しいキャンパス
- ・人に優しいキャンパス

～地域、環境、地球とつながる～

- ・効率的なコンパクトキャンパス
- ・低層部の緑の丘
- ・光と風の抜ける分棟配置
- ・誰もが使いやすいユニバーサルキャンパス
- ・高さ60mに抑え緩やかなスカイラインを形成
- ・エコによるコスト削減

世界の知を融合し、新しい知を育む
「知の森」を創造します。

「知の森」… 様々な人間の知的な営みが出会い、
新たな知を生み出す豊かな知的集合体としての森。

展開範囲

1000以上の学舎
理系研究棟（予定）
文系研究棟（予定）
国際交流棟（予定）
学生生活棟（予定）
体育館（予定）
学生食堂（予定）
学生寮（予定）
学生クラブハウス（予定）
学生インフォメーションセンター（予定）